

第 1 学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	・拗音、促音、撥音、助詞などはまだ習得しきれておらず、書き誤りが多い。 ・話す力、聞く力、読む力、書く力については個人差が大きい。	・簡単な一文づくりや文章の書き方を繰り返し指導することで、拗音、促音、撥音、助詞の習得を図る。 ・相手意識をもって話したり、聞いたりすることができるように、話す順序を意識させたり、話を聞く態度の手本を示したりする。 ・物語や説明文に興味をもって読んだり、思ったこと・感じたことを書いたりできるように、読む視点を明確にする。 ・様々な形態で音読することを繰り返し行い、内容理解を図る。そのうえで、話し合い活動を行い、読む力を高めていく。
算数	・加法・減法の計算が定着していない児童がいる。自力で解決する力には個人差がある。 ・たし算、ひき算の文章問題で問われていることを理解し、的確に答えることにつまずきが見られる。	・具体物やブロックなどの半具体物操作から、解決を図るようにする。 ・フラッシュカードや計算カードを使用し、計算処理能力を定着させる。 ・問題を読み取る手順をパターン化し、指導する。問題解決する際に、簡単な図や絵を用いながら答えを導けるようにする。 ・予想される児童の反応を基に、自力解決に必要な具体物やヒントカードを用意したり、助言したりする。
生活	・人との関わりに慣れていない児童がいる。 ・観察物をカードに記録する際、文・絵ともにどう表現してよいか悩む児童がいる。	・異学年や保護者、地域の方々と交流する活動を通し、人との関わり大切さを実感させる。 ・身の回りの自然（中庭、公園など）と関わりながら、四季の変化に気付けるよう、自然と関わる時間を十分に確保する。 ・活動の記録やまとめには、各自の気づきを自覚できるよう個別で声をかけながら支援し、相手に伝わるように表現させていく。 ・調べ方やまとめ方、発表の仕方について必要な支援をしていく。
体育	・運動能力や運動経験に差があるので、様々な動きを体験させる必要がある。	・ルールが単純な遊びを繰り返し行い、ルールを守ることによって楽しく運動できることに気付かせる。 ・児童のよい動きを称賛し、友達の多様な動きに興味をもてるようにする。 ・指導言を精選することで、運動時間を多く確保する。また、多様な動きをする運動を取り入れることで、運動能力を高める。

第 2 学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	・新出漢字の定着に個人差がある。また、文章を書く際に、既習の漢字を使えない児童が多い。 ・拗音、撥音、句点、読点の定着が十分でない児童が見られる。 ・「書くこと」では、「初め・中・終わり」を意識して書くことにまだ慣れていない。	・漢字小テストを繰り返し行うことで漢字の定着を図る。また、漢字の組み立て（部首）を意識できるように指導する。 ・文章を書く際には、既習の漢字を活用できているか、拗音、撥音、句点、読点が正しく使えているか確認する時間をとる。 ・文章を書かせるときに、「初め・中・終わり」の構成を生かせることに気付かせ、構成メモを作成し、文章の組み立てを意識して書かせるようにする。
算数	・新しい単元の学習内容は理解している児童が多いものの、その知識や技能を活用して思考を働かせ、自分の言葉などで表現することができない児童が多い。 ・「長さの測定」や「時こくと時間の読み取り」の定着が十分でない児童が見られる。	・答えを求めるだけで満足させるのではなく、考え方に根拠をもたせ、その考え方をノートに記述させたり、発表させたりする。その際には、文や図・式など自分が考えやすいものを用いさせ、全体で表現する方法を押さえていく。 ・「長さの測定」では、細かい目盛りが読み取りづらい場合は、目盛りを拡大したり、目盛りに数字をふったりする。また、長さを測る機会を意識的に設けたり、実際の長さのものを用意したりするなどして量感を養う。 ・「〇分後」などの時刻や時間を意識させ、日常生活の中で時間を読み取る必要性を感じられるようにする。また、学習者用端末を活用し、習熟を図る。
生活	・観察カードなどに見たことを表現することはできているが、自分との関わりにおける気付きは少ない。 ・児童の気付きや思いを基にして学習計画を立てているため、学習に取り組んでいるときは、動植物のよさやまちの楽しさなどを実感しているが、それを自分の生活と結び付けて考えることはまだ難しい。	・教師が価値付けをし、自分との関わりで物事を見る視点や以前の観察と比較する習慣を身に付ける。 ・生活と結びつけて考えている姿を価値付け、広めていく。
体育	・児童によって、運動量や運動経験の差が大きい。	・各運動遊びの楽しさに触れられるよう、易しい運動遊びを通して基本的な動きを身に付けるとともに遊び方の工夫を楽しみながら、多様な運動を経験できるようにする。

第 3 学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	・話の中心に気を付けて聞くこと、筋道を立てて話すことの個人差が大きい。 ・「書くこと」の情報の収集や整理に課題が見られる。 ・語彙が少なく、文章の広がりが少ない。 ・新出漢字や前学年の漢字が、一部定着していない。	・互いに聞き、読み合う活動の中で、話題の中心を確認する活動を多く取り入れる。 ・情報の取捨選択を行う場面を多く設定し、テーマに沿った必要な情報を収集する習慣を付ける。また、教科書や教員の作品例を掲示し、完成形を明確にすることで、どんな情報が必要なのかの見通しをもたせる。 ・普段から漢字を使うことを意識し、漢字で表現するよさを実感させる。 ・鈴木タイムや宿題での漢字の練習時間を確保する。
社会	・知識や資料から自分の生活と関連付けた考察をすることについては十分とは言えない。 ・初見の資料の読み取りは個人によって差がある。	・指導項目にあった児童に身近な資料を使用し、生活と関連付けやすい授業を行う。 ・まとめの際、学習したことから何が分かったか具体的な内容で振り返るように促していく。 ・多くの資料に触れ、どんな資料でも読み取れる力を付けていく。
算数	・全体的に意欲は高く、集中して取り組む。 ・「知識・技能」の定着度は高いが、繰り上がり繰り下がり の加減算・九九が定着していない児童が数名いる。 ・自分の考えを図や式、言葉を使って工夫して表現しようとする児童が多い。	・筆算や九九の習得は、習熟プリントやフラッシュカード等の補充学習を継続して取り組み、基礎的学力の定着を図っていく。 ・つまずきのある児童に少人数指導でヒントを提示する等、個別指導を充実していく。 ・児童の思考力・表現力の向上を図るため、「まず」「つぎに」「そのように」などのつなぎ言葉の例を示してペア学習の充実を図る。
理科	・授業で行った観察や実験を通して、体験的に身の回りの自然事象を科学的な概念へとつなげることができている児童もいるが、個人差がある。 ・動植物の観察では、細かい特徴を捉えてスケッチする能力に差がある。色・形・大きさに着目して書けるようになったが、その気付きから新たな問題を見いだして仮説を立てたり、他の植物と比較して考えたりしたことを書くことには課題がある。	・実験や観察の際、日常生活で起こる事象に焦点を当てたり、予想や仮説をしっかりと立てたりすることで、見通しをもって観察や実験を行えるようにする。 ・実物に忠実に描く丁寧なスケッチの方法と観察の視点を再度指導し、意識させる。 ・多様な動植物の共通点と差異点に着目し、比較・分類する活動を引き続き行い、理科の考え方を働かせることを繰り返し経験できるようにする。
体育	・意欲はあるが、特性に応じた技能については個人差がある。 ・個に応じたためあてを立てることに個人差がある。	・学習カードや映像資料でポイントを示し、自分が次に何ができるようにしたいのかを明確にもたせる。 ・ICT 機器なども使用しながら、友達の動きのよさやそこから学んだコツを自分の動きに生かせるよう共有する時間をつくる。

第 4 学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	・「読む」について、内容の大体をつかむことはできるが、深く読む習慣がなく、読み飛ばしてしまう児童が多い。国語の文章読解だけでなく、各教科のテストでも問題を読み飛ばして間違えるということがある。 ・文章中での習った漢字の活用や、言葉の説明、語句の選択などが苦手な児童が多い。	・学習活動の流れを児童と共有し、単元全体の言語活動に見通しをもたせる。 ・大事な言葉やキーワードに注意しながら読み進める習慣を身に付けられるように、指導する。 ・文章を書く際に、習った漢字を意識的に使うように声掛けをし、単語や文脈を考え、正しい漢字を使っているかどうか見直しをさせる。
社会	・都内の地形や産業の特色、都道府県の位置や名称などへの関心があまりなく、定着に大きな差がある。 ・水道やごみ処理などインフラに関わることについて、「なぜ」「どうして」と疑問をもちながら学習に臨んでいるが、グラフや写真などから必要な情報を読み取って考察したり、適切に表現したりすることが難しい児童が見られる。	・東京都の地形に関しては、立体地図を作成し、それを活用しながら地形について具体的に考えられるように指導していく。また、地図やデジタル教材を活用しながら、都道府県とその土地の特色を関連付けながら学習するとともに、スリーヒントクイズづくりや都道府県カルタなど、楽しみながら学習できる環境を作り、国語の都道府県の漢字の学習などと組み合わせながら定着を目指す。 ・グラフや写真、映像資料に触れる機会を増やし、そこから読み取れることや視点を確認しながら取り組ませることで、必要な情報を取捨選択できるようにするとともに、その情報から考えられることを適切に表現できるようにする。
算数	・新しい学習の際には、既習事項を用いて考え、問題を解こうとしている。しかし、思考力・判断力を問う課題に対しては、分かったことを式や図、言葉で表現するのが難しい児童がいる。 ・基本的な四則演算の計算ミスをする児童が多い。また、数の構成や文章題の読み取りや作図など個人差が大きい。	・ノートの記述例を提示したり既習事項の活用例を示したりなど、見通しをもって課題を解決できるようにしていく。自力解決が難しい場面では、例題を一緒に解いたり具体物を用いたりなどして課題を解決できるようにしていく。 ・習熟プリントやデジタルコンテンツ等を活用しながら、計算練習時間を確保することで個に応じた学習を充実させ、基礎学力をつけていく。
理科	・自分の考えを発言し、意欲をもって取り組むことができるが、既習事項や生活経験を関連付けて事象を説明できないことがある。 ・結果から考察を導き出す際には、自分の言葉で書ける児童と個別に声かけが必要な児童とで差が見られる。	・自然事象と用語を結び付けて、予想や考察が行えるよう、ペアやグループ学習など説明する時間を設定する。 ・考察を行う際は、実験結果を文章化する、仮説や実験方法を振り返る、自分の生活経験と結びつけるなど、書く際の視点を与え、まとめる力を身に付けさせていく。
体育	・意欲的に運動に取り組むことができているが、自分の課題を捉えること、それを改善するために適切な練習の方法や場を選ぶことができるようにする必要がある。 ・友達と見合い、伝え合うことなどの学び方が身に付いていない児童が多い。	・学習カードを用いてめあてを明確にもたせるとともに、課題に合った練習の場を選べるように環境を整えることで、自分で考えて取り組む思考力等を高めていく。 ・ペアやトリオ、グループ活動を多く行うことで、児童同士の見合いや教え合いの場を意図的に設定する。

第5学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	・語彙力に個人差があり、また簡潔に説明することや文章で表現することにおいて個人差が大きい。 ・覚えた漢字を積極的に使う児童と平仮名ばかりの文を書く児童の個人差が大きい。	・自分の意見や感想などを簡単な文章にまとめる作業を計画的に取り入れ、書き方を示すことで書くことに対しての抵抗感を少なくし、文章に簡潔にまとめる力を伸ばす。 ・漢字練習を習慣化させながら、漢字で表現するよさや日常的に使うよさに気付かせる。
社会	・資料を読み解くことに苦手意識のある児童が見られる。 ・資料から読み取り、関連付けて考えることや読み取ったことから自分の考えをまとめることに個人差がある。	・社会的事象を日常生活に置き換えて考えられるよう、導入や資料提示の工夫をする。 ・資料から「分かること」「気付いたこと」「思ったこと」を出させ、見方や考え方の視点を明らかにし、課題を発見させていく。また、ペア学習の機会を積極的に取り入れて、読み取ったことを共有することで、自信をもってまとめられるようにする。
算数	・全体的に意欲的に取り組む。 ・学力差が大きい。基礎計算に課題の合う児童もいる。 ・自分の考えを他者に説明するまでの理解に至っていない児童がいる。特に文章題おける立式に課題が見られる。	・自力解決ができるよう既習学習の想起を丁寧に行いながら、個人で考える時間を十分に確保し、問題解決学習の定着を図っていく。ペア学習やノート交流で互いの考えを伝え合ったり、多様な考えに触れたりする場面を多く設定したりして、表現力を高めていく。 ・文章題は、数直線を用いて表現することを重点的に指導し、数量関係を捉えさせ、立式につなげていく。
理科	・予想や仮説を基に実験計画を考える経験に乏しい。 ・実験結果から考察を行うことに抵抗がある児童がいる。	・実験計画を児童自らが考える時間を十分に確保する。実験方法を考える際は条件を制御して行うよさを理解させる。 ・結果から考察につなげる際に、どのような書き方をすればよいかを示し、日常生活や経験を振り返ることを習慣化していく。
体育	・技能においては個人差が見られる。 ・グループや個人のめあてをもって運動することや課題解決の練習方法を考えることが難しい児童が見られる。	・体づくり運動を通して、柔軟や体を動かすことの楽しさを感じさせる。個々に対応した場の設定を行う。 ・個人やグループのめあてを立てさせて学習カードを作成し、それを基に教え合いや作戦・振り返りタイムなど話し合う時間を多く取り入れ高め合えるよう指導の工夫をしていく。
外国語	・コミュニケーション活動を楽しみながら取り組む児童が多いが、発音に自信がもてない児童も見られる。 ・書く活動については経験が少なく個人差が見られる。	・ALTとのやりとりをたくさん行い、ネイティブ発音に多く触れる機会を設ける。また、英単語や英会話に抵抗なく表現できるよう、アクティビティの内容を工夫していく。 ・書く活動は、4線を意識させた掲示物やワークシートを活用し、反復練習をしていくことで、習得を図る。

第 6 学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	- 文章の読み取りは比較的できている。ただし、要旨をまとめたり、自分の考えを記述したりする力には差がある。 - 書く型を示すと意識して書くが、具体性や自身の経験との関連付けに課題がある。 - 要点をまとめて話す力と相手の意見を受けて、対話を深める力には課題がある。	- 要旨をまとめることを習慣づける。記述させ、自分の書いた文章を読み直し、修正する力を付けていく。また、手書きだけでなく修正のしやすいパソコンを使用することで見直す習慣を付けていく。 - 語彙力の向上と、具体的な例文の掲示を行う。また情報の収集・精選において時間を確保し、具体例や事例まで集められるようにする。 - 自分の考えを一度整理してから発表する習慣を付ける。また相手の話を受けて自分の考えを再構築する時間を確保し、その良さを共有していく。
社会	- 複数資料を関連付けて多角的に読み取る力に個人差がある。 - 学習の振り返りで、自身の経験と関連付けて書くことに課題がある。	- 学習内容に応じて『位置や空間的な広がり』『時期や時間の経過』『事象や人々の相互関係』などの社会的事象に着目させ、必要な情報を得るために、具体的な課題提示や教材の工夫を行う。 - 学習の中で、身近な生活との関わりを意識できるように教材を工夫する。
算数	- 基礎学力の定着に個人差がある。 - 自分の考えを書くことはできるが、順を追って発表できない児童が多い。 - 文章問題の立式に課題が見られる。	- 一単位時間の中で適用問題を解かせ、基礎学力の定着を促す。 - 隣の児童同士や三人組など少人数において自分の考えを伝える機会を多く設ける。また、他者と学ぶ価値を伝えていき、新たな見方・考え方をもつことができるようにする。 - 数直線を自分でかけるように、文章題では常に数直線の考え方を取り上げる。
理科	- 実験や観察に意欲的に取り組んでいるが、実験結果と考察を混同してしまう児童もいる。 - 結果をもとに考察することに課題のある児童がいる。	- 既習事項や経験から根拠のある予想を立て、観察や実験を進める。 - 実験結果と考察の違いを常に意識させる。考察したことからさらなる疑問や問題を話し合い、新たな課題を設定し、主体性を高める。
体育	- 意欲的に参加する児童が多く、チーム内での励まし合いもよくできているが、技術面での助言がまだ少ない。 - ゲームになったときに作戦を意識して行動することに課題がある。	- 学習カードを活用し、技術的なことについて振り返っている児童を紹介、共有していくことで技術面にも注目していけるようにする。 - 学習カードを活用し、作戦を選べるようにする。記述は結果だけではなく、学習の過程も振り返りながら、次時につなげる。
外国語	- アルファベットや簡単な英単語について、書くことができる児童が多く見られる。 - コミュニケーション活動を楽しみながら取り組む児童が多いが、発音に自信がもてない児童も見られる。	- 伝え合う必然性のある場面を設定して児童の主体性を引き出すようにする。 - アクティビティの活動を二人組から始め、徐々に人数を増やし、練習を重ねることで自信をもって発表できるようにする。

音楽科 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
1 年	・鍵盤ハーモニカの運指やタンギングが上手くできない児童がいる。 ・楽しく音楽活動に参加できない児童がいる。	・常時活動や楽曲練習において運指やタンギング練習を繰り返す行う。教員の見本演奏や得意な児童の演奏を聴き合う時間をつくる。 ・興味をもたせるような導入や活動の工夫をおこなう
2 年	・鍵盤ハーモニカの運指やタンギングが上手くできない児童がいる。 ・けん盤ハーモニカや打楽器の音色を工夫して演奏できない児童がいる。	・常時活動や楽曲練習において運指やタンギング練習を繰り返す行う。発表の場を設定し繰り返し練習することで技能の習得を図るようにする。 ・思いや考えを演奏や音に表現できるように考えたり音を聴く時間を設定したりする。
3 年	・リコーダーの息遣いが安定せず、美しい音色が出ない児童がいる。 ・演奏自体を楽しんではいるが、曲の雰囲気にあった音色で演奏をすることが難しい。 ・階名を学習したが楽譜を読むのが難しい。	・楽しく、継続的に学べる方法を設定し、個人指導や友達と学び合える仕組みを整える。 ・楽曲を理解し、どのように演奏したいかを考える時間を設定する。 ・簡単な音符やリズムが読めるように繰り返し学習する。
4 年	・リコーダーの息遣いが安定せず、美しい音色が出ない児童がいる。運指の習得ができていない児童が見られる。 ・演奏自体を楽しんではいるが、息の合った演奏をすることに課題がある。	・楽しく、継続的に学べる方法を設定し、個人指導や友達と学び合える仕組みを整える。 ・楽曲に取り組む際、音をよく聴く活動や拍に合わせる練習を繰り返し、音楽表現の素晴らしさや楽しさを経験させる。
5 年	・楽曲のもつ特徴を生かしながら思いや意図をもった演奏につなげることが難しい児童がいる。 ・自主的な学びができず、音楽技能の習得が乏しい児童が見られる。	・楽曲のもつ特徴を理解させながら演奏表現につなげる活動を大切にする。 ・個人指導を定着させ、自主的な学びができるように支援する。本番を通して緊張感や達成感、音楽表現の素晴らしさを経験させる。
6 年	・楽曲のもつ特徴を生かしながら思いや意図をもった演奏につなげることが難しい児童がいる。 ・自主的な学びができず、音楽技能の習得が乏しい児童が見られる。	・楽曲のもつ特徴を理解させながら演奏表現につなげる活動を大切にする。 ・個人指導を定着させ、自主的な学びができるように支援する。本番を通して緊張感や達成感、音楽表現の素晴らしさを経験させる。

家庭科 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
5 年	・意欲的に取り組むことはできているが、裁縫の技能に関しては個人差が大きい。 ・技能は身に付いていても、知識が不足している児童もいる。	・個別に支援させる体制を組んで、きめ細かい指導を継続していく。 ・実物投影機・資料提示を工夫し、イメージをもたせ、技能の習得・向上を図る。 ・縫い方の特徴や差異などを確認しながら、方法の良さに気付けるように指導する。
6 年	・製作や実習をすすんで行う児童が多いが、計画や振り返りを具体的に進め、思考を深められるようにする必要がある。	・児童の主体性を意識しながら、目的や活動時間などを明確にし、計画を立てさせ日常の生活にも生かすことができるような手段や方法を示していく。 ・振り返りでは、実習などを通して考えたことや今後に生かせそうなことを記載するよう促して意識化させるとともに、考えを共有することで、思考を深めることにつなげていく。

外国語活動 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
3 年	外国語活動の時間に対して意欲的に取り組む児童が多いが、間違えることを恐れて、英語で発話することに消極的になってしまう児童が多く見られる。	- 歌やチャンツなどを活用し、外国語に慣れ親しむ時間をたくさん設定する。 - あいさつの仕方やリアクションなど、既習内容を繰り返し活用しながら学習の積み重ねを大切にする。また、ゲームや言語活動を通して、外国語でコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえる場を多く設定する。
4 年	- 英語を声に出すことや、ALT との会話を恥ずかしがる児童のためにより積極的に参加できる工夫が必要である。 - アクティビティやゲームが楽しくなりすぎて、学習のめあてからそれてしまうことがある。	- ペアやグループの活動をさらに取り入れることで、会話する機会を多く持たせ、表現する楽しさや喜びを味わわせる。 - ねらいを明確にした活動を取り入れ、楽しみながら英語に親しんだり、英語のスキルを身に付けたりできるように、授業展開を工夫する。

図画工作科 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
1 年	・活動に夢中になり、課題から逸れてしまうことがある。 ・個人によっては技能的な能力に著しく差があり、個別対応が必要である。	・課題に関心をもてるよう、題材との出会いや声掛けを工夫する。また、机間指導を通して、児童が課題と向き合えるようにする。 ・個別対応が必要な児童には学習指導補助員を配置し、道具の使用による危険がないよう目を配りつつ達成感を得られるよう配慮していく。
2 年	・意欲と関心をもち、新しいことに挑戦したり、生き生きと取り組んだりすることができる。 ・個人によっては技能的な能力に著しく差があり、個別対応が必要であるが、非常に努力している。	・引き続き児童が興味・関心をもって取り組めるよう、新たな道具や素材との出会いや声掛け、題材提供をしていく。 ・個別に指導が必要な児童には、安全に取り組めるように目を配り、一人一人の個性や能力を発揮できるように配慮しつつ指導を行っていく。
3 年	・非常に高い意欲と関心をもち、真面目に取り組むことができる。 ・いろいろなことを試したり工夫したりする力が伸びており、それゆえの失敗もあるが、意欲が高い。	・引き続き児童が興味・関心をもてるよう、新たな道具との出会い、声掛けや題材提供をしていく。 ・発想したことを、自信をもって表現できるように、失敗をおそれなくても大丈夫だという安心感を持てるような声掛けをしていくと同時に挑戦することの大切さを伝えていく。
4 年	・意欲的に取り組み、新しいことへの関心や向上心が強く、生き生きと活動・表現できる。 ・集中力にムラがあり周りの様子に影響されてしまったり、制作進度がマイペースで完成までの時間がかかったりする場合もある。	・引き続き児童が興味・関心をもてるよう、声かけや題材提供をしていく。また新たな素材にも数多く触れさせ、発想力・創造力を育んでいく。 ・集中力を高められるように、常に新鮮な「めあて」を一人一人にもたせていく。様々な例を示し、どのような表現をしたらよりよくなるか参考にさせる。
5 年	・真面目に意欲的に取り組んでいる児童が多い。よく考えながら工夫して表現しようとする姿が印象的である。その一方で集中力が続かなかったり、手が止まってしまう提出期限に間に合わなくなったりするケースもある。	・引き続き児童が興味・関心をもてるよう、声かけや題材提供をしていきつつ技能や発想力を伸ばしていけるような課題設定も行っていく。 ・集中力が続かない児童について、個別対応をより一層重視し、個に応じた指導を徹底していく。
6 年	・友達と一緒に制作することの楽しさを感じている。それゆえに友達の作品のよい工夫に気付くことができる。 ・自身だけの力で集中して制作することが苦手な児童が見られる。	・じっくりと腰をすえ集中して作品制作に取り組むことでその良さを感じられるような題材提供や声掛けを続けていく。 ・集中力に欠ける場合、どのような環境が最適かを担任とも連携を図りつつ整えていく。

特別の教科 道徳 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
1 年	- 教材文から価値に迫ることはできているが、児童によって差が見られる。また、感じたことや実体験を言葉(文字)にすることが難しい児童もいる。 - 道徳的価値を自分のこととして捉えたり、自分の経験と重ね合わせて考えたりすることが難しい。	- 指導者が児童の実態を丁寧に把握した上で、教材の内容を活用し、ねらいに向かうための過程を考えるようにする。 - 児童の気付きや考えを引き出せるような発問、教具、板書の工夫をする。 - 学級での発表の機会を多く設け、他の児童の多様な考えを互いに認め合いながら自身の考えを深められるようにする。
2 年	- 道徳的価値について個々に考えようとする意識はあるが、言葉で表現することや友達の意見を聞き、見方や考え方を広げることが難しい児童が見られる。 - 教材文で考えたことを実生活と関連付け自分事として捉えられる児童と難しい児童がいる。	- 児童が自分の考えを表しやすい教具を活用することで、言葉による表現をしやすくしていく。 - 友達と意見を見合う時間や自分の考えを深められる時間を設けるなどして、様々な見方・考え方があることに気付き、深めていく。 - 導入で道徳的価値に意識を向けることができるような工夫をしていく。 - 展開や終末で自分自身について見つめ直す時間を十分に確保する。
3 年	- 道徳的価値についての理解はできている児童が多いが、その価値をより多面的・多角的な見方へと発展させることが難しい児童が見られる。 - 道徳的価値を自分事として捉えたり、実体験を振り返って関連付けたりすることが難しい傾向にある。	- 考えるテーマを絞り、児童が実体験を想起しやすくする。また、板書を工夫して、友達の考えを捉えやすくし、自己を振り返る手がかりとなるようにする。 - ペアやグループでの話し合いや意見の交換等、友達の様々な考え方を多く聞き合える場を設定し、全員が考えたり刺激を受けたりできるようにする。 - 自分の日常の具体的な場面に置き換えて自分を見つめる時間を十分に確保する。
4 年	- 道徳的価値についての理解はできている児童が多いが、その価値をより多面的・多角的な見方へと発展させる必要がある。 - 学んだ道徳的価値を自らの生活に結び付けられるような活動を充実させる必要がある。	- 話し合いの形態を工夫し、他者の考えと自分の考えを比較させ、物事を多面的・多角的に考えることができるような場を設定する。 - 毎回の授業で、取り扱った内容や自分の考えについて振り返る時間を確保する。その時間に学んだ価値を自らの生活にどのように結び付けられるか、また、今後どのような自分になりたいかなどを考えさせる。
5 年	- 道徳的価値についての理解はできている児童が多いが、その価値をより多面的・多角的な見方へと発展させることが難しい児童が見られる。 - 道徳的価値を自分事として捉えたり、実体験を振り返って関連付けたりすることが難しい傾向にある。	- 自分や相手の考えを視覚的に共有したり、比較したりする方法を用いて話し合う時間を設けたりすることで、児童同士が新たな見方に気付くことができるようにする。 - 自らを振り返る時間を長めに設けることで、実体験を通して道徳的価値を深められるようにする。
6 年	- 自分の考えをもつことはできるが、相手の考えを聞いて受け止める意識が低い児童もいる。 - 自分の経験と重ねて考え、自己の生き方について考えを深めたりすることに課題がある。	- 教師の発問を工夫したり、自他の考えを視覚的に捉える手だてをとったりする。 - 座席配置を工夫したり、ペアや班・全体での交流活動を多く取り入れたり、多様な考えを認め合えるようにするとともに、自分の考えを深め、道徳的価値を理解しながら、自己の生き方について考えを深められるよう工夫していく。

